

# 印刷・製本業務管理システム紹介

## ITで経営の見える化実現

### ピー・エス・シー

印刷・製本業界向けの各種業務管理システムを開発・販売するピー・エス・シー(株)(本社/東京都足立区、原田敏明社長)はpage2019において「パワーアップ印刷・製本」をはじめとした各種管理システムを紹介する。同社のブースはD-40。

同社は「ITで経営を見える化」を製品開発方針に掲げ、これまでに延べ150システム以上を業界に提供している。原田社長は「経営をIT管理することで隠れていた数値が見えるようになる」と評価されており、製本

業界でシェアナンバーワンの120システム以上の納入実績を誇っている。そして数年前からは、製本だけでなく、印刷業界向けの「印刷業務管理システム」、印刷・製本業界向けの「印刷・製本業務管理システム」も開発しているが、これについては後発であるため、導入しやすいリーズナブルな価格帯で差別化を図り、納入を進めているところだ。原田社長は「まずは使っていたか

ないとシステムの良さを分かっていただけないので、品質は競合製品と同等以上を維持しながらも価格設定を下げている」と説明する。

一元管理により事務作業の省力化と現場の生産性向上を実現

同社のシステムは、標準システムでは見積りから受発注、販売管理、請

求書、指示書発行、売り掛け管理などの一元管理が可能。オプションで「進捗管理」などの生産管理システムを搭載することができ

セルなど個別のシステムを使うなど合理化されていない会社が以外と多い。これらを一元管理することにより、二次入力、三次入力などの無駄を省き、省力化を実現できる」と説明する。

また、原田社長はITシステムの活用は製造現場の生産性向上にもつながると指摘する。

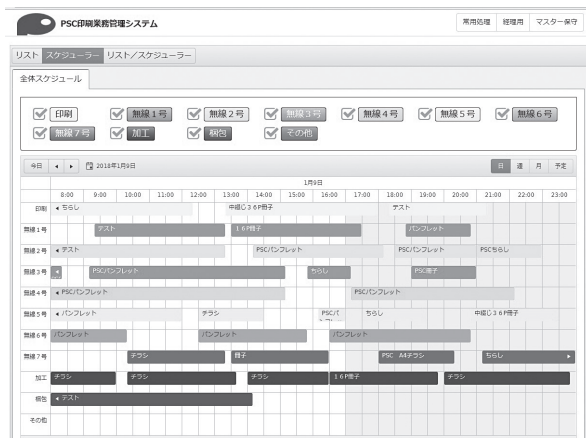
「バーコード管理することにより、日報を書く手間を省くことができ。受注番号、工程番号、機械番号、担当者番号などをバーコード管理することで、リアルタイムで進捗状況を把握することができ、日報と同じものを作成できる。省力化した時間を多能工化することで、工場全体の生産性向上につなげることができ(原田社長)

原田社長は事務処理作業を一元管理するメリットについて「印刷業界は業界としてはIT化が進んでいるが、事務処理作業については部門ごと

にファイルメーカーやエクセルが標準システムとして搭載されている。これは案件ごと、受注番号ごとにワード/エクセル/イラストレーターなどどのようなファイルでも入れることができるフォルダ。後々に検索したときに関連資料がすべて出てくるため、ユーザーからは便利な機能だと高い評価を得ているようだ。

「中小の印刷、製本業界ではいまだに指示書や発注書などをFAXでやり取りしている企業も多い。これらの入力情報を含めてすべて「資料ボックス」に入れておくことで、トレーサビリティにも役立てることができ(原田社長)

「営業先から見積りが細かくなることが多いため、営業先においてその場で見積りを出すことがなかなか難しい。納期短縮が求められる中、見積りを会社に持ち帰ってから作成して出すことで仕事が遅れば、受注のチャンスを逃すことにもつながりかねない。そのような中、同社では今回、営業先から見積り作成が可能な新機能をリリースする。



WEB 工程管理画面

同社システムは「資料ボックス」としては、資料ボックスの生産性を向上させ、会

「営業先から進捗状況を確認できるシステムは開発済みだが、今回はシンプルなお見積りを営業先で出せるシステムを発表する(原田社長)

「営業先から見積りが細かくなることが多いため、営業先においてその場で見積りを出すことがなかなか難しい。納期短縮が求められる中、見積りを会社に持ち帰ってから作成して出すことで仕事が遅れば、受注のチャンスを逃すことにもつながりかねない。そのような中、同社では今回、営業先から見積り作成が可能な新機能をリリースする。」